

愛犬の為のものづくり講座 -様々なフィールドでの実践から犬×木工の可能性を探る-

森と木のクリエイター科 木工専攻 鈴木 みなも

1. 研究の背景

私は、幼い頃から自然の中で遊ぶ事が好きだった。自然と関わる仕事がしたいという思いから農業・茶業を学び、お茶の工場で働いていた。アカデミーに入学したきっかけも、ものづくりをしたいという思いと、自然の事が学びたいという思いがあったからである。本学で、森から暮らしへのつながりを様々な授業を通して学んでいく中で、森に関わる楽しさ、豊かさを改めて実感する事ができた。

そこで、木工を手段に木の魅力、森の魅力を伝え、森に目を向けてもらうきっかけを生み出す事に私の役割があると感じた。また、木製品としてどこに需要があるのかを模索していく中で、実家がペットサロン営んでおり、身近に犬と暮らす人が多かった事から、私にとっての身近な人へのアプローチとして犬と暮らす人をターゲットにした木製品に需要があるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

「森に目を向けてもらう事」をキーワードに愛犬の為のものづくり講座を行い、木製ドッググッズにニーズがあるという事や、ものづくり講座の新たなターゲット層になるのかを確かめ、実践を繰り返しながら犬×木工の可能性を探る事にした。

3. アイテムの調査（市場調査・モニター調査）

ドッググッズの中から講座のアイテムとして作れるものを調査し、木のおもちゃ(ガジガジ棒)をアイテムにモニター調査としてキャンプイベントでワークショップを実施した。結果、以下の事が見えてきた。

- ・自然素材で安心安全で良いという声があり、木と犬との相性が良さそうという事がわかった
- ・オリジナル感があるものに需要があると感じた
- ・木のおもちゃ＝噛む(バリエーションが作りづらい)
- ・噛む力が強いとすぐ壊れてしまう

以上を踏まえ木のおもちゃは講座のアイテムとして難しいと考え、暮らしの中長く使えるものとして、フードスタンドをアイテムに選定し実践を行う事にした。

4. アイテムの試作

先行調査を元にフードスタンドのコンセプトを決定し試作を行った。以下が試作のコンセプトである。

- ① コンパクト →折り畳みができる
 - ② 高さが選べる→4本脚のデザイン
 - ③ オリジナル →名前プレートをつける
- 以上を踏まえてデザインを決定し、完成したのが〈写真1〉〈写真2〉である。

〈写真1〉



〈写真2〉



5. テスト講座

アイテム、作業内容に問題はないか確認する為、2人の学生で製作してもらい自宅で使用してもらった。作業は①組立て②サンディング③名前プレートをつけるという簡単な工程で作業時間も90分程度で完成する内容にした。使用感として、「食べやすい」「折り畳めるのが良い」とコメントをいただいた。

6. 実践

テスト講座を元に3箇所のフィールドで、実践を行った。「森に目を向けてもらう事」をキーワードに打ち合わせをしながら講座内容を企画していった。

6-1 実践①公園の森(ぎふ清流里山公園)

ドックランが併設されており、ペット連れのお客が多い事からフィールドを選定した。

日時：9/3,10 時間：2時間

参加人数：12名(10代~50代 男性5名、女性7名)

参加費：2,000円

〈目的〉公園に生えているアベマキを使う事で、公園の森に目を向けてもらう事を目的にした。

〈内容〉アベマキの特徴や様々な種類のどんぐりの違いの解説から始まり、その後

フードスタンド製作を行う。

〈考察〉普段散歩に行く身近な森公園にどんな木が



生えているのか立木を見ながら解説する事ができた。参加者からは、「人生初のワークショップ参加でしたが、楽しめた」という感想があった。公園担当の臼井彰平さんからは、「森林への興味を持っていただくきっかけ作りになっていた」と感想をいただいた。一方、犬を連れて来た方が少なく使用感の確認が出来なかった事から、内容を見直し、さらにキット製作の時間短縮・材料ロス削減からアイテムの見直しも行った。

〈講座内容の見直し〉高さを調整することを前提とした講座内容に変更する事にした。

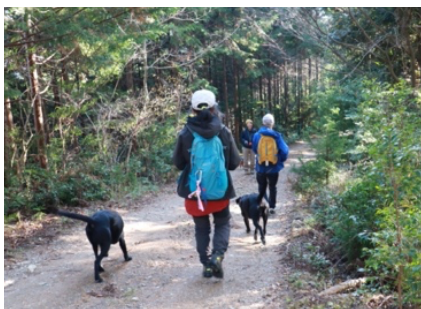
〈アイテムの見直し〉棧、接合部材の加工、ボウルの材質を変更した。

6-2 実践②針葉樹の森 (三重県大台町 Wans Laugh)

三重県大台町トヨタ宮川山林の森林空間を活用して、ワンコの森遊びのイベントを行っている、フィールドでの実践。夏に働かせていただいた事がきっかけで、コラボイベントとして実施する事になった。

日時：12/9 時間：森遊び 70分 ものづくり 90分
参加人数：2名(50代～60代 男性1名、女性1名)
参加費：10,000円/1名、1,000円/1頭(森遊び)
S/4,000円 M/6,000円 (フードスタンド)

〈目的〉森の中の空間だけではなく、地元のヒノキ材を使う事で、針葉樹の森に目をむけてもらう事を目的にした。



〈内容〉午前中

は、林道を歩きながら森で遊び、昼食後フードスタンド作りを行う。講座の中で、犬の体格に合わせてスタンド高さを調整する。

〈考察〉森あそびで空間を楽しみ、遊びの中でヒノキの解説をする事ができた。オーナー小田明さんからは、「手の込んだクオリティーの高い体験手段になると思う」と感想をいただいた。一方、価格が高価になった事で集客が難しかったと考え、内容を見直し、さらに、大型犬の需要に対応する為アイテムの見直しを行った。

〈講座内容の見直し〉短時間で気軽に参加できる講座内容にし、フードスタンドの魅力を写真だけでは伝えにくいと感じ、手に取り見てもらえるようにした。

〈アイテムの見直し〉大型犬は、食べる勢いがよくスタンドが閉じてしまう可能性があると感じ、折り

畳みの機構を変更した。

6-3 実践③街中 (ペットサロン)

森と離れた街中での実践。気軽に参加できる講座として行った。

日時：12/26～31 時間：40～60分
参加人数：8名(10代～40代 男性4名、女性4名)
参加費：S/4,000円、M/6,000円

〈目的〉様々な樹種を使用し、木の魅力、木製フードスタンドの魅力を伝える事を目的にした。

〈内容〉参加者が自ら材を選び、フードスタンドを作ってもらい、会話の中で材の特徴を解説する。

〈考察〉見える展示にした事で、使用感のイメージがしやすくなった。また、重さや色合いが違う材も見てもらえる事ができた。参加者からは、「これはなんの木ですか?」という質問があり、木を知るきっかけになっていたと感じた。

〈今後の講座の課題〉内容・時間のバランスが難しい事、アイテムとして、犬種、年齢、体格、性格によって食べやすい高さの基準が異なるという課題が見えてきた。



7. まとめ

「森に目を向けてもらう事」をキーワードに講座を実践してきた。愛犬の為のものをきっかけに、計22名の方に参加していただけた事から、木製ドッググッズとしてニーズがあると感じた。また、シニア犬のご家族からは「オーダーメイド商品として作って欲しい」という声もあり、講座のアイテムだけでなく木製フードスタンドの商品としての需要も見えてきた。

さらに、男女問わず幅広い年齢層の方に参加していただき、初めてものづくり講座に参加された方も多く、ものづくり講座の新たなターゲット層になる事も確認できた。以上から犬×木工に可能性を感じ、木・森の魅力を伝える手段になる事がわかった。

8. 今後の予定

卒業後も本研究で得られた経験を元に実際に活動していく予定で、私自身が主催する講座、コラボイベント、犬イベントへの出店を考えている。さらに、オーダーメイド商品としてより個々に合わせた商品としても展開していきたい。